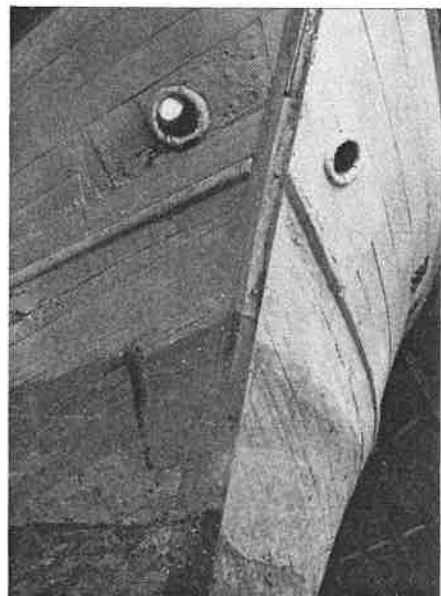


福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財)第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494



原水爆のない未来へ 撮影・英伸三

わが国は、正しく、平和への努力を積み重ねていくことが、こ

明けましておめでとうございます。昨年、大石又七さん(当協会評議員)の『死の灰を背負って』の出版や、ビキニ事件当時の外交文書の公開で、第五福竜丸展示館が注目を浴びた年でした。今年もより多くの方々にご来館いただくことを期待し、皆さんに充分満足のいく見学をしていただ

新しい年を迎えて

川崎 昭一郎

けるよう当協会役員・事務局一同努力いたすつもりです。ひきつづき展示館をもちたてて下さいますよう、皆様方のご協力をぜひともお願い致します。世界はいま、わたしたちの目の前で大きな変化をとげつつあります。そのなかで、さまざまな注目のべき核軍縮の提案も出されています。

しかし、核兵器のない平和な世界がひとりだけでやってくるものではないことはたしかです。

わたしたちひとりひとりが、正しい知識にうらづけられたしっかりした考えをもつこと、そしてわたしたちの平和への努力を積み重ねていくことが、こ

れまでになく大切になってきていると思います。

水爆の証人としての第五福竜丸は、その迫真力、臨場感において他にかえがたいものがあり、平和への心をはぐくむはかりしれない力を秘めています。

「第五福竜丸は人類の未来を啓示する」との三宅泰雄初代会長のことを折にふれて思い出すことが大事です。それは、わたしたちに、努力の正しい方向をさし示してくれ、励ましをあたえてくれます。

このたび当協会で作成した新しいポスターにもこのような思いがこめられています。

今年、国際平和研究学会(IPRA)の第十四回総会が、同総会としては初めて日本で(七月に京都で)開催されることになっていきます。世界各国から多数の第一線の平和学研究者が来日されますので、これらの方々にもぜひこの機会にご来館いただければと思っています。

皆様にとってよい年でありませう、心からお祈り致します。(第五福竜丸平和協会会長)

「写真展」印象深く、ポスター各校で活用

和歌山、焼津の学校へポスター贈呈

「ここでこのような写真展を見られて感動しました」―十二月二十八日の年末まで展示館で開かれた「船を見つめる子どもたち―英伸三写真展」は、文字通り、船と写真と見つめる人々が一体となった印象深い写真展でした。隣の机に置かれた芳名簿は、石川県、三重県はじめ遠方から訪れた人々の名前が丁寧に書かれ、いくつもの感想も添えられました。新聞で紹介されたこともあって、訪れるひとが多く、期間中展示館来館者は昨年を越えて約二万名、「原水爆のない未来へ」の願いを共にしました。

また、展示館のポスターも好評

あ、ポスターはこんなふうにものをいう……

拝啓 私は高文研の『ジュ・パン』を購読して第五福竜丸展示館のポスターのことを知りました。公的ではなく個人的にポスターが欲しくお便りさせて頂いたきます。私は群馬で美術の教員を目指す大学生です。ポスター二枚のうち一枚を見ることができたので

群馬県赤城村 Y.K.さん

すが、あ、ポスターはこんなふうにものを言うものなんだ、と思いました。とかく、手先でやった仕事が目先にきれいに映ればもてはやされてしまうポスターやデザインの中にいるので、目から鱗が落ちたような気がしました。そうして今、伝えなければならぬものを



和光中学校の「文化祭」にはポスターも

は「部活で必要です」と高校生が、群馬県の赤城村の美術の大学生からは「こんなポスターで授業ができるような先生になりたい」とうれい便り(別項)が届きました。東京の和光中学校では、文化祭

選ぶのにも、安易になつて自分の反省しました。いつかこのポスターのような作品で授業のできる教師になりたいと思っています。どうぞポスターを二組送ってください。よろしくお願ひします。これからも私たちに本当に知り続け、伝え続け、意識し続けなければならぬもののために警告を発し続けて下さい。 敬具

協会理事会開く

十二月十一日、協会の第百五回理事会が開かれ、当面の活動計画等について審議し、三・一・ビキニ事件記念集会の開催等を決定しました。

三・一・ビキニ事件記念集會

二月二十八日(金)午後六時半〜九時、文京区民センター、講演は①ブッシュ米大統領の核軍縮提案について(八坂題)梅林宏道氏②ビキニ事件に関する外交文書について、など。参加費三百円。

外交文書の学習研究会

一月二十九日(水)午後六時半より、学士会館、参加自由。協会にお問い合わせ下さい。

第五福竜丸事件の意味するもの

松井 康浩

第五福竜丸は、ものいわずデンとしてその姿を私達の前に展開している。見あげる私はその偉容に圧倒されるのである。

第五福竜丸のこの姿に、如何なる意味を見出し、如何に意義づけらるかは、私たち自身であるが、今日それを考えることは大事である。ビキニで被曝してから三八年、「財団法人第五福竜丸平和協会」が設立されてから一九九一年になる。協会の目的として掲げられているのは「昭和二十九年三月一日ビキニ水爆実験の被災船第五福竜丸を記念し、原水爆被害の諸資料を蒐集・保管・展示することにより、都民の核兵器禁止、平和思想の函養に貢献する」ということである。

初代会長三宅先生は、この目的に向けての協会活動を軌道にのせられ、一九九〇年一月一六日に他界された。二代會長川崎先生はその後を継ぎ、三宅先生の遺志をいっそう発展させるべく努力を傾

注しておられる。

いま、大事なことは、ブッシュ、ゴルバチョフ両大統領の核軍縮提議を契機として、核兵器の廃絶に向けて一押しも二押しもすることである。そもそもこの米・ソ超核大國の提議は、世界の反核世論を無視しえなくなったことに重要な原因がある。両國は、核をもって核を制する「核抑止力論」に立脚して、核軍拡に狂奔した。その結果地球上に五万発もの弾頭を存在させることになったのである。その一発が爆発しただけで、人類は絶滅の危険にさらされることが科学的に証明されている。

核軍縮の提議は、もとより歓迎できるが、米・ソとも「核抑止力論」に固執して、核兵器の近代化に精を出している以上、これが廃絶に向っているとは一概にいえない。核をもって核を制するという武力による平和の思想は、核を全廃して平和を保持しようとする思

想と質的にあいれないからである。なぜこのような超危険物を、いつまでも保有するのか。それで誰の利益を守ろうとするのか。

第五福竜丸は、ソ連を屈伏させようとするアメリカの核戦略の犠牲にされた。漁業という平和産業にかかわらず、とりかえしのつかない深刻な害悪が加えられたのである。加害は第五福竜丸に限定されない。山下正寿氏によれば、ビキニ被災漁船員は一万名前後である。さらに現地の住民はどうなったのか、現にどうしているのか。

アメリカ政府も日本政府も、その全貌が明らかになることを嫌っている。広島・長崎については、アメリカは嚴重な報道管制をしいたのみならず、赤十字社の医療救援さえ妨害した。ビキニ事件の米・日両政府の解決の仕方も、きわめて不透明なものであった。なぜこのような重大事件を秘密のうちに片付けなければならなかったのか。きわめて不明朗といわざるをえない。

わが協会は、ビキニ事件の象徴的存在としての第五福竜丸を預るものとして、その背後にある人的

物的被害、社会環境の変化の全容と実験の軍事的政治的意味を明らかにすべきではなからうか。

国際反核法律家協会が主催した一九八九年の法律家世界大会（ハーグ）でのアメリカの環境法学者の報告によれば、核実験を含むアメリカの核兵器製造、運搬過程において、多くの被曝者が出ており、汚染が進んでいる。アメリカの核が配備されている国においては、アメリカ政府に製造中止を申し入れてほしい。アメリカではその産業の従業員に就労拒否を呼びかけたことのであった。

人類は、その長い歴史のなかで文明を発展させてきたが、そのなかから核兵器という人類の生存を否定する悪魔がくり出された。核兵器は人類と共存しえないものである。何という皮肉である。しかし、人類は、その英知をもって滅亡の途を阻ぎ、栄光の途を拓いていくであろう。そうしなければならぬ。日本国民はその先頭に立つべきである。

(第五福竜丸平和協会理事)

ビキニの海は忘れない③ 核実験を見た 船員たち

山下 正寿



1986年4月24日付高知新聞

幡多高校生ゼミナールは、その後、高知県の14漁村で40回を超える調査を行った。港町特有の狭い路地を通り、一軒つづ元マグロ漁民からビキニ事件の記録をとり、それを重ね合わせていった。

この作業によって、ビキニ事件の裾野の広さが鮮明になってきた。三月一日の水爆実験・ブラボーショットを見たのは第五福竜丸だけではなかった。

第七大丸の元船長・山本栄治さんは室戸岬町の自宅で次のように証言した。「三月一日の水爆実験の直前、多数の米軍艦船がいて第七大丸の船名部分にサーチライトが当てられた。午前三時頃、閃光が走り、あたり一帯が真っ赤になってキノコ雲が出てきた。降ってきた白い灰をふざけて口の中に入れた南さんは下船後入院して、その後死んでしまった。第七大丸は機関故障を起してウェーキ島に緊急入港して一週間程島にいて、その間に私だけが米軍の飛行機でハワイに連れていかれ病院で体の検査を受けた。東京入港前に船主より浦賀に入れと連絡があり、船と魚を洗ってから東京に向い築地の検査でガイガーカウンターが鳴った。室戸に帰ると高知大学の曾我部先生がきて、注意と指示を受けたが、二ヶ月程で歯が抜けてしまった。今でも毎年6月頃になると多量の血を吐く」

第七大丸はアメリカのビキニ水爆実験記録の中にも「DAIMA

RU」の記載が見つかった。実験直前にアメリカは第七大丸の航跡をとらえていた。実験直後は機関故障のため第七大丸はゆっくりと流れるように航行して、当時アメリカ軍基地であったウェーキ島に入港、東京に帰ったのは四月一日だった。

東京都衛生局の検査表には「船体各部一三〇〜二〇〇カウント」の放射能汚染が記録されている。その後の追跡調査では、二七名中四名がガン・白血病等で死亡、五名は入院をくりかえしている。ブラボー・ショットを見たもう一隻のマグロ船は第十一高知丸だった。当時船長だった林登さんは三月一日、ブリッジでこの光を見た。

「真っ暗やみに稲妻が走り、水平線が急に明るくなりました。その後オレンジと紫が交った太陽が上ったようになりました」

ビキニ環礁から約三七〇キロの距離だったが、林さんはそれが水爆実験と気づかなかった。操業を開始して二十四、五日経て、航行中の同船に米軍の航空機と二千トンの同船に米軍の航空機と二千トン林さんが軍艦に連行された。「コ

ースをゼロ(北)に取ってフルスピードで七百マイル(千二百九十キロ)離れる」と指示された。二度目の核実験(三月二十七日)のために指示されたことは後に判明した。帰港中に第五福竜丸の被ばくを知り、浦賀に寄り、風呂に入った後で東京に向った。それでも林さんの口の中から六百カウントの放射線が検出された。東京都衛生局の検査表には「上甲板ライト四〇〇〇〜五〇〇〇、通風筒二〇〇、廃棄マグロびん長61本」と記録されている。

この二隻が第五福竜丸と異なることは、水爆実験後も近くで航行・停泊していたことである。スクロールや海水によって長期間にわたって放射能汚染にさらされた可能性がある。そして、帰港後、入院治療もうけず半ば放置された。

高知の調査だけでも、核実験の目撃者は二四名(七隻)いた。ブラボー・ショットを含め百二十二回ビキニ・エニウェトク・ジョンストン・クリスマス島など中部太平洋で核の光が放たれた。光を目撃した船はまだいるはずである。

(高知県ビキニ被災調査団員)